

簡単！ルアーリメイク

『ウレタンフィニッシャーEX』や『超！ケイムラウレタンフィニッシャーEX』を使ったルアーのリメイク方法のご紹介！



① 研磨、足づけ
付属のサンドペーパー（#800）を水で濡らしながらルアー表面の傷等を除去するとともに、全体を平滑にします（ホログラムやカラー塗装部分を削らないように慎重に行なって下さい）。



② 脱脂、汚れ除去
研磨の後、『EX』塗料共通うすめ液（別売）をウエスなどに染み込ませ、表面の削りカスや水分、油分、塩分等をしっかりと除去して下さい。アイの部分も必ず行なって下さい。

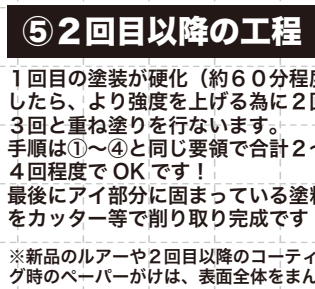


③ 塗装
ルアーのアイ部分をクリップ等で引っ掛け、ルアー全体が漬かるようにドブ漬け（ディッピング）を行ないます。泡が出ないようにそっと漬けて下さい。

※ラメ塗装などをする場合は、別の容器に塗料を適量移してからラメ等を混ぜ、ハケ（筆）で塗り、最後の仕上げ塗装にディッピングを行なって下さい



④ 乾燥・硬化
ディッピングで塗料がほぼ垂れなくなったら『ルアー用乾燥BOX』（別売）等に吊るして乾燥させます。乾燥は風通しのよい場所で行い、ルアーにホコリが着かないよう注意して行って下さい



⑤ 2回目以降の工程

1回目の塗装が硬化（約60分程度）したら、より強度を上げる為に2回、3回と重ね塗りを行ないます。手順は①～④と同じ要領で合計2～4回程度でOKです！最後にアイ部分に固まっている塗料をカッター等で削り取り完成です！

※新品のルアーや2回目以降のコーティング時のペーパーがけは、表面全体をまんべんなく均等に傷をつける程度に行い、削り過ぎないようにして下さい。

表面硬化は約20分
硬化時間は約4時間
(23℃)

ペーパーがけの理由

- ①ルアーの傷などを取り除く
- ②塗装面に細かい傷をつける事により接着面積が増え、塗料の密着力が向上する（塗装が剥がれにくく強い塗膜になる）
- ③塗装面が平滑になり、塗装後の仕上がりがきれいになる。

以上の目的があるのでペーパーがけは丁寧にしかりと均一に行なって下さい。

※多くの市販ルアーは一般的にウレタン塗料の溶剤でも溶けない塗装がされておりますが、念のため塗装する前に必ず変化が無いか目立たない場所に塗装し確認して下さい。特にプラグなど樹脂製品の場合は、溶ける恐れがあるので注意が必要です。

ここがポイント！

容器よりもルアーが長いときは？

ロングジグなど塗料の容器よりも長いルアーの場合は、片側をディッピングした後、概ね塗料が垂れない状態になったら写真のように反対のアイの部分にクリップを掛け、元側のクリップを外し、反対側も同様にディッピングします。



ディッピングする際の注意！

ディッピング後乾燥中は、塗料が徐々に上から下へと垂れて流れるので、ルアーの上の部分よりも下の方が少し塗膜が厚くなります。よって2回目以降のディッピングは右写真のように、前回は反対側のアイにクリップを掛け、交互にディッピングをするとバランスのとれた塗装が行えます



塗料を長持ちさせる方法

本製品は、空気中の水分と化学反応を起こし硬化する性質の塗料です。ご使用の条件により専用うすめ液で希釈した際や一度使用しただけでも容器内で固まってしまう場合があるので、開栓後は出来るだけ早めに使い切して下さい。一度固まると専用うすめ液でも溶けず二度と使用できなくなります。それらを出来る限り防ぐため、以下の点に注意しご使用下さい。但し、性質上100%防止することは出来ませんのでご了承下さい。

- 1、高温多湿時の使用は避け、なるべく20℃前後で湿度の低い状態の時に使用する。
- 2、出来る限り開栓している時間を短くする。
- 3、使用後は必ずキャップやビンなどに付着した塗料を拭き取り、しっかりとキャップを締める。
- 4、水分や塩分等が付着した状態の塗装物をディッピングしない。
- 5、ディッピング時は塗料内に出来る限り空気が入らないよう、ゆっくりと漬ける。
- 6、直射日光の当たらない、温度変化の少ない冷暗所に保管する。

TOHO, Inc.
<http://www.fishing-toho.com/>

※塗料本体に記載されております注意事項も必ずお読みになり、正しくご使用下さい。
※上記写真は撮影の為手袋を装着していません。

詳しい情報はWEBサイトにて

WEBサイトでは上記内容を動画で配信中！